

第3回 キャリア教育部研修会報告書

単元名 5年生 体育科「フラッグフットボール」E ボール運動：アゴール型
仲間と協力！PDCAでタッチダウン！
授業者 浜松市立相生小学校 教諭 磯川 祐地

1 授業について

令和4年度のキャリア教育部の研修テーマ「社会的・職業的自立に必要な資質・能力が身に付くキャリア教育の在り方 ～教科学習におけるキャリア教育を通して～」の具現化を目指し、以下のような研究の視点をもとに、研究に取り組んだ。

(1) キャリア教育で育てたい力

◎課題対応能力

チームで話し合い、失敗を恐れずに考えた作戦に挑戦したり、その作戦を見直したりしながら、課題を解決できる。

○人間関係形成、社会形成能力

仲間の話を理解しようとして聞いたり、自分の考えを正確に伝えたりするとともに、仲間の動きや考えの良さを見つけることができる。

(2) 学習計画

段階	学習のめあて	時数
導入	フラッグフットボールは、どんなボール運動かな。	1
展開①	みんなが楽しめるには、どんなルールが良いかな。	2
展開②	自分たちのチームの特徴に合った作戦は、どんな作戦かな。	2
展開③	チームの作戦を成功させるために、どんなプレーや伝え合いができるかな。	2
まとめ	最後の試合でどんなチームの良さを出せるかな。	1

(3) 3つの視点

- ・動画教材やキャリアプレートを活用して「見通し」をもたせる
- ・ICTを活用した単元を通じた「振り返り」
- ・児童の振り返りの内容に応じた「学びを未来につなぐ一言」

2 研究内容

(1) 見通しの工夫

単元の導入でキャリアの視点（課題対応能力や人間関係形成、社会形成能力）を示すことにより、児童は、授業を通してどんな力を高めていくべきか見通しをもつことができた。

(2) 振り返りの工夫

ICTを活用し、スプレッドシートで振り返りを行うことにより、自己評価がグラフ化され、児童に視覚としてすぐにフィードバックされるのは、とても効果的であった。児童に自分の取り組みを可視化させていくことは、有効的であり、様々な教科でも活用していくことができる。

(3) 学びを未来につなぐ一言についての工夫

教師による価値づけが、児童の学びの達成感や成就感に大きく影響する。児童の姿やコメントを踏まえて一言を言うことが重要で、全体の場でタイミングよく価値付けることも必要である。学習カードには毎時間、個に応じたコメントが書かれており効果的であっ

た。



3 成果と課題

(1) 成果

- 動画教材やキャリアプレートを活用して「見通し」をもたせることは、有効で児童の学ぶ意欲を高められた。
- ICTを活用した単元を通した「振り返り」を行うことで児童に視覚として自分の取組を振り返らせることができた。
- 教師による「学びを未来につなぐ一言」は、児童の学びの達成感や成就感を味わせる上でとても重要である。

(2) 課題

- キャリア教育の視点は、最初から示すのではなく、児童がうまくいかない時に示す方が児童の中に入っていきやすい場合もある
- 教科の目標とキャリア教育の目標を合致させていたので、振り返りも教科とキャリア教育を分けて考えさせなくてもよい。
- 振り返りは、アイコンタクトしながら話し合う場面も必要であり、ICTの活用をどのように組み入れていくかは、指導者がきちんと押さえておかなければならない。

4 指導・助言

3つの視点（見通しの工夫、振り返りの工夫、学びを未来につなぐ一言の工夫、）を意識して授業を実践することができていた。キャリアプレートで可視化することは、学習の拠り所になる。児童の内なる思いに目を向け、意欲を高めていかなければならない。また、児童一人一人の学びが次につながるように児童の言動を捉え、価値付けていくことが大切で、実態に合わせて「心に入っていき言葉」を選んでいくことが求められる。キャリア教育は、学校体制で年間計画を作成し、チームで進めていかなければならない。教科の学びをのり代のある形で縦と横をつなげていきたい。



キャリア教育研究部研修会 11月9日 会場 浜松市立相生小学校
助言者 浜松市立双葉小学校 校長 藤井 隆志 先生

